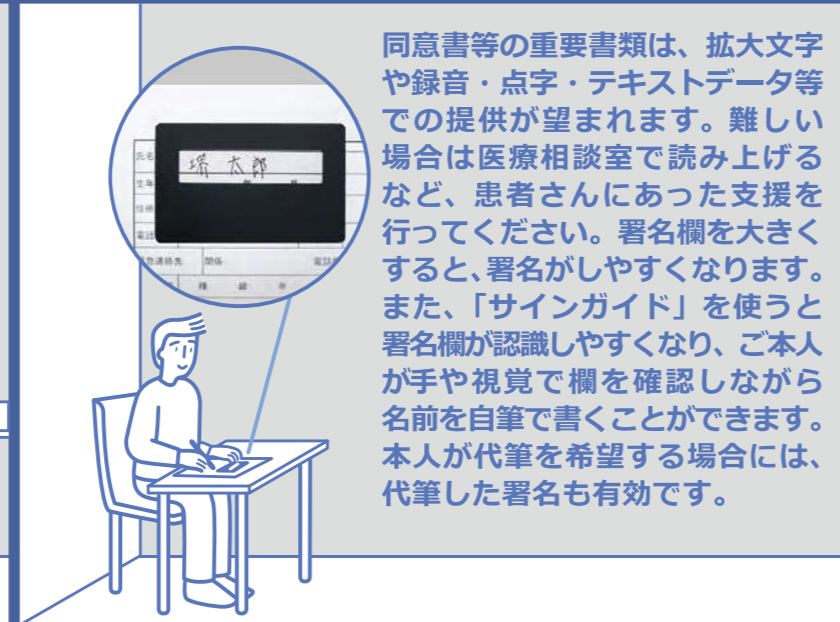


◆ちょっとした工夫が安心・安全につながります

見えない、見えにくくても手で触ることで位置を特定しやすくなります。言葉で詳しく説明をしたり、触ってわかる方法を準備して伝えてもらうといいでしょう。



医療従事者のためのサポートガイド

『視覚に障害のある方が病院に来院されたら』



わかりやすい言葉のポイント

- ・長く続けず、短く区切る。
- ・専門用語は、身近な言葉に言い換える。
- ・なるべく肯定形で表現する。二重否定は特に避ける。

障害の程度や症状は、ひとりひとり異なります。



健全な見え方



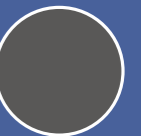
中心暗点



視野狭窄



まぶしさ（羞明）



全盲

視覚的な情報が制限されるため、情報を収集すること、空間を把握すること、目的地までの距離や経路を確認することが困難です。コミュニケーションを大切に、柔軟な対応を心がけましょう。

病院でこんなサポートがあると 見えない・見えにくい方は来院時に安心できます！

必要とされるサポートは、見え方や身体条件、その他の感覚能力により異なります。「自分でできることは自分でしたい」と思われる方も多くいます。何を手助けしてほしいのか、必要なサポートは何かを確認し、分からないときは患者さんに「どうしたらいいですか？」と直接質問してください。

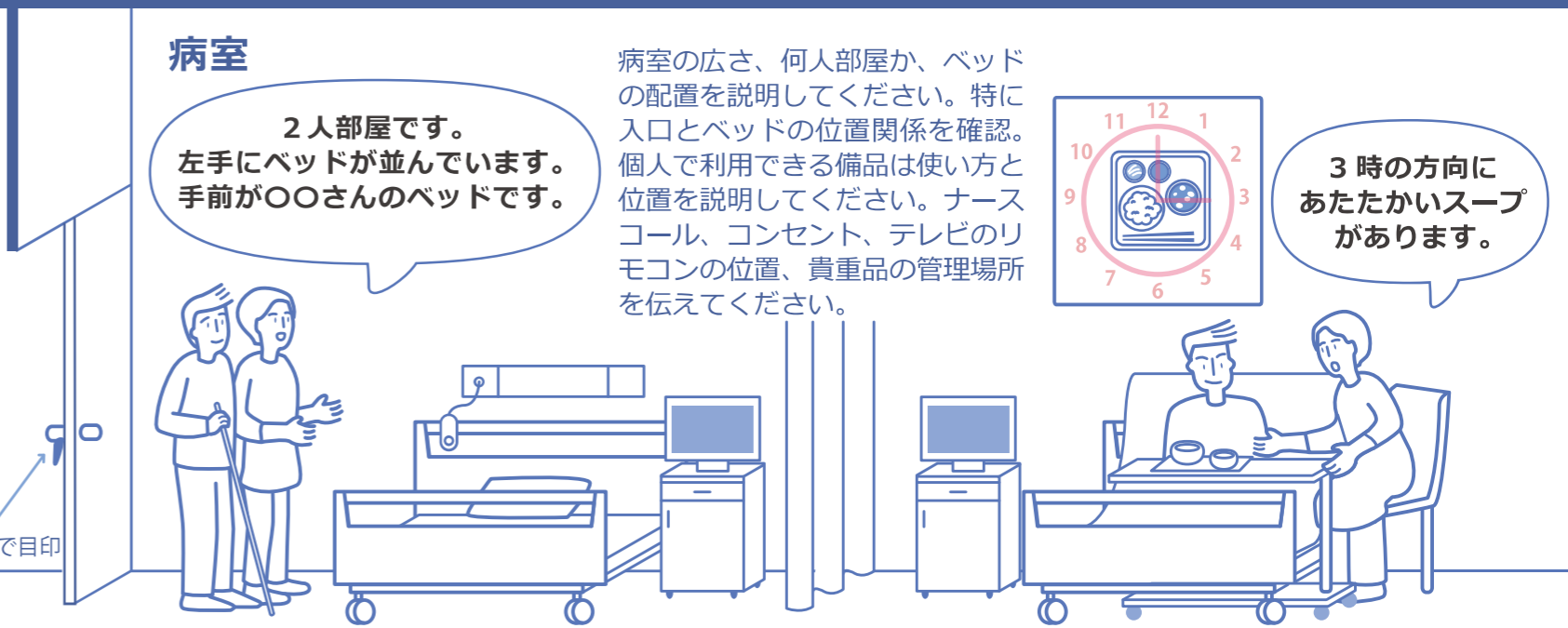


◆一番困るのは移動です

視覚的な情報が制限されるため、情報収集、空間把握、目的地までの距離・経路を確認することが困難です。誘導の際は視覚障害者の半歩前に立ち、肘のあたりをつかんでもらいます。身長差によっては、肩に手をのせてもらう、手首をつかんでもらうこともあります。誘導する際は白杖を持っていない側の腕になりますが、ご本人の希望を確認してもらうといいでしょう。また、通路にはなるべくものを置かないようにしてください。

◆安心して診察・検査が受けられるように

「どんなことをするのか」、「どの程度時間がかかるのか」、「実施した結果がどうだったのか」、説明をしてください。拡大したり、近くで見ると見える人もいます。ご本人に聞きながら進めてください。見えない人にご画像の説明等を丁寧にするように心がけてください。検査結果については、録音、資料提供等を提案すると安心されます。複数の資料を渡す際は、それぞれ何の資料かを伝えてください。資料の文字は大きめのゴシック体にするとうみやすくなります。



階段での誘導
手すりを使って一人で上り下りしたい人もいます。事前に手すりを利用するかをたずねましょう。一人で昇降したい人には手すりに手を誘導します。階段や段差では始まりと終わりで、一旦立ち止まって声を掛けてください。

病室の位置
移動がしやすいように、ナースステーションの近くや、トイレが室内にない場合はトイレの近くが望ましいです。ベッドは入口に近い方がわかりやすいです。

◆目で見えたものを音声で説明します

見えない、見えにくい方は初めての場所では困りごとが多くなります。特に通路にあるものとの接触や、小さい表示等が見えないことで普段よりも動ける範囲が狭くなること多いです。見やすい表示や通路にものを置かないようにして、移動範囲を確保することも大切です。通路にものを置かないようにしましょう。